

BIRD Homeopathic Remedies from Avian Realm より

<レメディの中心>

強力な意志がこの鳥の著名な特徴である。意志は強烈で、強固で、一直線である。ハヤブサは世界で自分の個人的な意志を働かせる必要がある。プライド、屈辱と支配の問題が著名である。自由への切迫は鳥の一般的な特徴であるが、ハヤブサにおいてはその最も強い表現が、他者による征服や支配への抵抗という形で見られる。

自分は自由を求める手綱をつけられた野生の雄馬であるという妄想がある。

<レメディの特徴>

・子供を守る

・**家族**：タカとの関係は著しい。タカが家族の世話のために自分の意志を覆い隠すのに対し、ハヤブサは自分の意志が第一で、家族への気遣いは二の次。どちらも、家族の中で子供への不安と家族から逃げたいという欲求がブルーピングで現れた。

・**スピード**：「私は彼らと狩をしたが、自由なハンターでいたい。スピード。無人の土地の上を帆走したい。自由の王冠を身に着けたい。自分自身を深く突っ込むことが極めて楽しい。」

運転する；速い；無謀なそして結果への無関心をともなう。

運転する；スピードへの欲求。

・**怒り**：怒りは大変強い。冷たい、厳しい怒り、特に制限として認識されたものすべてに。

スクール・オブ・ホメオパシーのブルーピングでは、プルーバーの感覚は、屈辱を受け、あざけられ、過小評価されて、脅かされているというものだった。制限をもたらすと感じられたものに対するものすべてに、冷酷な怒りが向けられた。

・冷たさ、無関心、感情の欠如

・**あきらめと麻痺**：手と腕の麻痺の感覚。絶望、将来への展望がない。すべての土地と水が荒れ果てたか汚染された。孤独ととらわれているという気持ち。施設に収容される。家族がなく、支援がなく、仕事がない。障害児。

・**他者の意見**：ブルーピングでは、他者の意見への強い欲求が出た。受け入れられるためにハヤブサは、自由をあきらめる。自由を求めるが、鷹匠の皮手袋の上でつながれている。

・**色**：黄色への欲求。

・**幼年期の虐待**：虐待と放棄のテーマがある。もっとも深い幼年期の傷が表面化する。